

「ふれあいランチ」サービス

(上田市社会福祉協議会・有料給食サービス) 調査報告

A Survey of The Lunch Service for the Ageing in UEDA-shi

牧野忠康・萩原清子・六波羅詩朗
Tadayasu Makino, Kiyoko Hagiwara, Shiro Rokuhara

〔目次〕

- I はじめに
- II 調査の目的
- III 調査の対象と方法
- IV 調査結果と考察
- V まとめ
- VI 調査票

I はじめに

報告者らは、1988年度に長野大学産業社会学部社会福祉学科の「社会福祉士」受験資格コースの講座の一つとして開講した「社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」の担当教員である。1988年度には、本報告の末尾に名前を明記してあるように、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」に9名の学生(3年生)と「社会福祉援助技術演習Ⅱ」に15名の学生(4年生)が学んだ。

演習の後半(1988年10月から1989年1月)で、グループワークの演習を兼ねて社会福祉調査演習を取り組んだ。上田市社会福祉協議会の協力により、同社協が1988年5月より開始した「ふれあいランチ」と称するひとり暮らし老人、老夫婦世帯、身障者のみの世帯を対象にした有料の配食サービス利用者の実態調査を実施することができた。

調査計画の設定と指導は教員がおこなったが、24名の学生が中心となって調査項目の検討から始まる調査票の作成、面接聞き取り調査の実施、集計、分析を取り組んだ。学生にとっては、本格的な調査は初めてのことであり、時間的にも短期間の約3カ月間で完了させ、1989年1月18日には調査報告会を行うといった強行スケジュールであった。そのためあって、調査票、調査方法、集計、

分析および調査結果の報告といった調査過程のどこをとっても、不適切であったり問題点も多くあったことは事実である。

しかし、学生にとっては貴重な体験学習の成果と、調査に協力頂いた上田市社会福祉協議会と「ふれあいランチ」の利用者の皆さんのご厚意を無駄にしないためにも調査結果は記録に留められるべきと考えた。そこで、学生達が1989年1月18日の報告会でまとめた調査報告書等をもとに、牧野忠康の文責でリライトしたのが本報告書である。

II 調査の目的

「社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ」の社会福祉調査およびグループワークの演習課題をもちつつ、「老人生活の質的向上のための地域福祉のあり方を検討するために、老人の食生活の実態と意識を明らかにする」ことを目的とした。

III 調査の方法と対象

III. 1. 調査方法

調査の方法は、訪問面接による質問票での聞き取り調査法とした。調査員は、演習生が担当した。

III. 2. 調査票の構成

(1)回答者の属性に関する項目、(2)心身の健康についての事項、(3)買い物等の日常生活一般についての事項、(4)食事に関する一般事項についての事項、(5)「ふれあいランチ」サービス利用の実態等に関する事項、(6)人間関係に関する事項

Ⅲ. 3. 調査期間

1988年12月1日～25日

Ⅲ. 4. 調査対象

1988年11月現在における上田市社会福祉協議会の「ふれあいランチ」サービスの利用者のうち、ひとり暮らし老人52人と老夫婦世帯22人（13世帯）の計74人を調査対象とした。

Ⅲ. 5. 有効サンプル件数

有効サンプル件数は、表-1に示した。有効サンプル件数は、「一人暮らし世帯」が32人（男=7人、女=25人）、「夫婦世帯」に登録されていたが訪問調査で他の同居者がいたため「その他」に分類した者が5人（男=1人、女=4人）であった。拒否、入院、不在、サービス中止等で「調査不能」となった者は、20人（男=8人、女=12人）であった。

表-1 有効サンプル件数

	男		女		計	
	有効サンプル	調査不能	有効サンプル	調査不能	有効サンプル	調査不能
一人暮らし世帯	7 (38.9)	3	25 (69.4)	7	32 (59.3)	10
夫婦世帯	10 (55.6)	4	7 (19.4)	4	17 (31.5)	8
その他	1 (5.6)	1	4 (11.1)	1	5 (9.3)	2
計	18 (100.0)	8	36 (100.0)	12	54 (100.0)	20

単位=人、()内%

IV 調査結果と考察

IV. 1. 回答者の属性

1. 有効回答者の男女別、年齢別構成

有効回答者の男女別、年齢別構成は、表-2に示した。64歳以下は、男女とも0人であった。65～69歳が8人（14.8%、男=2人、女=6人）、70～74歳が15人（27.8%、男=4人、女=11人）、75～79歳が15人（27.8%、男=4人、女=11人）、80歳以上が16人（29.6%、男=8人、女=8人）であった。男の回答率数が女の半分であるが、男女の年齢構成に統計学的な有意差は認められなかった。

表-2 有効回答者の男女別・年齢別構成

年齢	性別	男	女	計
60歳未満		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
60～64歳		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
65～69歳		2 (11.1)	6 (16.7)	8 (14.8)
70～74歳		4 (22.2)	11 (30.6)	15 (27.8)
75～79歳		4 (22.2)	11 (30.6)	15 (27.8)
80歳以上		8 (44.4)	8 (22.2)	16 (29.6)
計		18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

単位=人、()内%

2. 住居の所有形態

夫婦世帯・独居世帯別の住居の所有形態を、表-3に示した。「持ち家」の者が30人（55.6%）で夫婦世帯が4人、独居世帯で23人（71.9%）であった。「公営借家」の者が11人（20.4）、「民間アパート」が1人であった。

独居世帯の者の方が夫婦世帯より「持ち家」が多いと、 $P < 0.01$ の水準でいえた。他は、両者に有意差は認められなかった。

表-3 住居の所有形態（夫婦・独居別）

住居	夫婦	独居	その他	計
持ち家	4 (23.5)	23 (71.9)	3 (60.0)	30 (55.6)
公営借家	6 (35.3)	5 (15.6)	0 (0.0)	11 (20.4)
民間借家	5 (29.4)	2 (6.3)	1 (20.0)	8 (14.8)
民間アパート	0 (0.0)	1 (3.1)	0 (0.0)	1 (1.9)
その他	2 (11.8)	1 (3.1)	1 (20.0)	4 (7.4)
計	17 (100.0)	32 (100.0)	5 (100.0)	54 (100.0)

単位=人、()内%

3. 居住歴

表-4に男女別居住歴、表-5に夫婦世帯・独居世帯別居住歴、表-6に年齢階層別居住歴をそれぞれ示した。

全体では、居住歴が「5年未満」の者が10人（18.5%）、「5～9年」の者が9人（16.7%）、「10～14年」の者が3人（5.6%）、「15～19年」

の者が3人(5.6%)、「20年以上」の者が29人(53.7%)であった。この構成は、男女、夫婦世帯・独居世帯、年齢階層において、それぞれのグ

ループ間で居住歴に有意の差は認められなかった。特に、年齢階層において居住歴に差が認められなかったことは注目される。

表-4 居住歴(男女別)

性別 居住年数	男	女	計
5年未満	4 (22.2)	6 (16.7)	10 (18.5)
5～9年	2 (11.1)	7 (19.4)	9 (16.7)
10～14年	1 (5.6)	2 (5.6)	3 (5.6)
15～19年	0 (0)	3 (8.3)	3 (5.6)
20年以上	11 (61.1)	18 (50.0)	29 (53.7)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

単位=人、()内%

表-5 居住歴(夫婦・独居別)

世帯 居住年数	夫 婦	独 居	その他	計
5年未満	5 (29.4)	4 (12.5)	1 (20.0)	10 (18.5)
5～9年	5 (29.4)	4 (12.5)	0 (0)	9 (16.7)
10～14年	0 (0)	3 (9.4)	0 (0)	3 (5.6)
15～19年	0 (0)	2 (6.3)	1 (20.0)	3 (5.6)
20年以上	7 (1.2)	19 (59.4)	3 (60.0)	29 (53.7)
計	17 (100.0)	32 (100.0)	5 (100.0)	54 (100.0)

単位=人、()内%

表-6 居住歴(年齢階層別)

居住年数 年齢	60歳未満	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	計 (%)
5年未満	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (13.3)	3 (20.0)	5 (31.3)	10 (18.5)
5～9年	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (25.0)	3 (20.0)	2 (13.3)	2 (12.5)	9 (16.7)
10～14年	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (6.7)	1 (6.7)	1 (6.3)	3 (5.6)
15～19年	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (25.0)	1 (6.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.6)
20年以上	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (50.0)	8 (53.3)	9 (60.0)	8 (50.0)	29 (53.7)
計	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (100.0)	15 (100.0)	15 (100.0)	16 (100.0)	54 (100.0)

単位=人、()内%

4. 生活費の主な収入源

生活費の主な収入源を、夫婦世帯・独居世帯別に示したのが表-7、男女別に示したのが表-8である。年金生活者が、全体で36人(66.7%)であった。高齢者の過半数以上の者が、年金に依存して暮らしていることがわかった。夫婦世帯・独居世帯別および男女間に、有意の差は認められなかった。

IV. 2. 「ふれあいランチ」の利用実態について

1. 「ふれあいランチ」サービスを受け始めた時期

「ふれあいランチ」サービスを受け始めた時期を、夫婦世帯・独居世帯別に表-9に示した。

「ふれあいランチ」サービスの開始された1988年5月の当初からサービスを受けている者は、全体で34人(63.0%)であった。他は、6～8月からの開始の者が12人(22.2%)で、調査月の「1～3カ月前」から受け始めた者が7人(13.0%)であった。この構成は、夫婦世帯と独居世帯で有意の差は認められなかった。

2. 「ふれあいランチ」の利用動機

「ふれあいランチ」の利用動機を、男女別に表-10に示した。

表-7 生活費の主な収入源（夫婦・独居別）

性別 生活費	夫 婦	独 居	その他	計
仕 事	1 (5.9)	2 (6.3)	0 (0.0)	3 (5.6)
仕送り	0 (0.0)	1 (3.1)	0 (0.0)	1 (1.9)
国民 年金	1 (5.9)	4 (12.5)	0 (0.0)	5 (9.3)
厚生 年金	3 (17.6)	8 (25.0)	0 (0.0)	11 (20.4)
共済 年金	5 (29.4)	4 (12.5)	0 (20.0)	9 (16.7)
老齢福 祉年金	1 (5.9)	2 (6.3)	1 (20.0)	4 (7.4)
遺族 年金	0 (0.0)	6 (18.8)	0 (0.0)	6 (11.1)
障害 年金	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)
恩 給	0 (0.0)	1 (3.1)	2 (40.0)	3 (5.6)
生 保	0 (0.0)	1 (3.1)	0 (0.0)	1 (1.9)
財 収	2 (11.8)	1 (3.1)	0 (0.0)	3 (5.6)
貯 金	2 (11.8)	2 (6.3)	1 (20.0)	5 (9.3)
その他	1 (5.9)	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (3.7)
計	17 (100.0)	32 (100.0)	5 (100.0)	54 (100.0)

単位：人、()内%

表-8 生活費の主な収入源（男女別）

世帯 生活費	男	女	計
仕 事	2 (11.1)	1 (2.8)	3 (5.6)
仕送り	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (1.9)
国民年金	1 (5.6)	4 (11.1)	5 (9.3)
厚生年金	1 (5.6)	10 (27.8)	11 (20.4)
共済年金	6 (33.3)	3 (8.3)	9 (16.7)
老 齢 福祉年金	3 (16.7)	1 (2.8)	4 (7.4)
遺族年金	0 (0.0)	6 (16.7)	6 (11.1)
障害年金	1 (5.6)	0 (0.0)	1 (1.9)
恩 給	0 (0.0)	3 (8.3)	3 (5.6)
生 保	0 (0.0)	1 (2.8)	1 (1.9)
財 収	1 (5.6)	2 (5.6)	3 (5.6)
貯 金	2 (11.1)	3 (8.3)	5 (9.3)
その他	0 (0.0)	2 (5.6)	2 (3.7)
計	18(100.0)	36 100.0)	54(100.0)

単位：人、()内%

表-9 「ふれあいランチ」サービスをうけ
はじめた時期（夫婦・独居別）

世帯 開始期	夫 婦	独 居	その他	計
1988年 5月から	14 (82.4)	17 (53.1)	3 (60.0)	34 (63.0)
6 月 から	0 (0.0)	3 (9.4)	0 (0.0)	3 (5.6)
7 月 から	0 (0.0)	3 (9.4)	0 (0.0)	3 (5.6)
8 月 から	0 (0.0)	4 (12.5)	2 (40.0)	6 (11.1)
9 月 から	0 (0.0)	4 (12.5)	0 (0.0)	4 (7.4)
10 月 から	0 (0.0)	1 (3.1)	0 (0.0)	1 (1.9)
11 月 から	2 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.7)
N・A	1 (5.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)
計	17 (100.1)	32 (100.0)	5 (100.0)	54 (100.0)

単位：人、()内%

全体では、「周囲から勧められたので試しに」とする者が11人(20.4%)、「楽しみを増やしたかったから」が11人(20.4%)で、次いで「料理はできるが面倒であるから」が7人(13.0%)であった。この傾向に、男女間の有意差は認められなかった。

3. 「ふれあいランチ」の利用回数

「ふれあいランチ」の利用回数を、利用動機の類型別に表-11に示した。

全体では、「週5回」が14人(25.9%)、「週2~4回」が16人(29.6%)、「週1回」が20人(37.0%)であった。「週0回」の人は調査日の前月で中止していた者で、「不明」は回答者から利用回数が聞き出せなかった者で3人いた。

これを、表-10に示した「利用動機」により「ふれあいランチ」の「必要型」と「楽しみ型」に類

型化してクロスしてみた。しかし、両者での利用回数には統計学的な有意差を認められなかった。

表-10 「ふれあいランチ」の利用動機（主なものを一つ）

選 択 項 目	全体(N=54)	男(N=18)	女(N=36)
1. 身体的に不自由で料理するのが困難だから	3 (5.6)	0 (0.0)	3 (8.3)
2. 身体的に不自由で買物をするのが困難だから	1 (1.9)	0 (0.0)	1 (2.8)
3. 値段が手軽だから	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
4. 今まで料理をしたことがないので料理するのが苦手だから	4 (7.4)	3 (16.7)	1 (2.8)
5. 料理はできるがめんどうであるから	7 (13.0)	1 (5.6)	6 (16.7)
6. 周囲から勧められたのでやむをえず	1 (1.9)	1 (5.6)	0 (0.0)
7. 周囲から勧められたのでためしに	11 (20.4)	5 (27.8)	6 (16.7)
8. 楽しみを増やしたかったから	11 (20.4)	3 (16.7)	8 (22.2)
9. 配食員とのふれあいを期待したから	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10. 台所などの料理をする設備がととのってないため	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
11. 近くに買い物をするような売店がないから	3 (5.6)	1 (5.5)	2 (5.6)
12. そ の 他	13 (24.1)	4 (22.2)	9 (25.0)
合 計	54 (100.0)	18 (100.0)	36 (100.0)

単位：人、()内%

表-11 「ふれあいランチ」の利用回数と利用動機

実態 カテゴリー	動機カテ ゴリー	必 要 型	楽 し み 型	そ の 他	全 体
1	週 0 回 利 用	0 (0.0)	1 (3.7)	0 (-)	1 (1.9)
2	週 1 回 利 用	6 (26.1)	14 (51.9)	0 (-)	20 (37.0)
3	週 2 回～ 4 回利用	8 (34.8)	7 (25.9)	1 (-)	16 (29.6)
4	週 5 回 利 用	10 (43.5)	4 (14.8)	0 (-)	14 (25.9)
5	不 明	2 (8.7)	1 (3.7)	0 (-)	3 (5.6)
計		26 (100.0)	27 (100.0)	1 (-)	54 (100.0)

単位：人、()内%

4. 「ふれあいランチ」の利用で変化した日常生活について

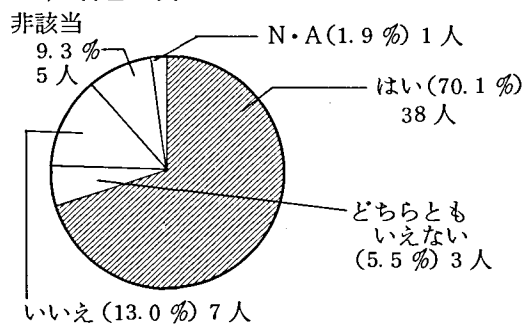
「ふれあいランチ」の利用で変化した日常生活について、図-1の(1)~(8)に示した。

- (1) 「料理の手間が省けた」と回答した者は、38人(70.1%)であった。
- (2) 「買い物の手間が省けた」と回答した者は、22人(40.7%)であった。
- (3) 「食事が楽しくなった」と回答した者は、35人(64.8%)であった。
- (4) 「給食サービスの食事により栄養のバランスがとれた」と回答した者は、39人(72.2%)であった。
- (5) 「人と話す機会が増えた」と回答した者は、19人(35.2%)であった。
- (6) 「食費が安く済んだ」と回答した者は、25人(46.3%)であった。
- (7) 「生活していく上で楽しみが増えた」と回答した者は、35人(64.8%)であった。
- (8) 「他の福祉サービスにも関心を持つようになった」と回答した者は、19人(35.2%)であった。

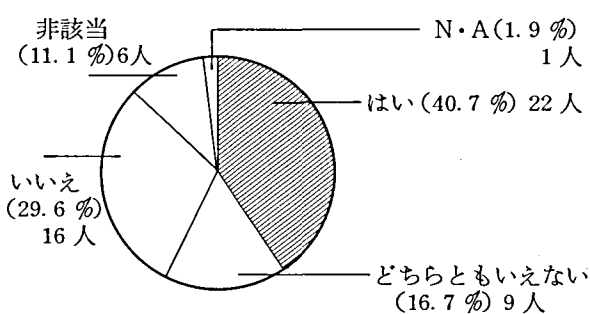
った」と回答した者は、22人(40.7%)であった。

図-1 「ふれあいランチ」の利用で変化した日常生活について

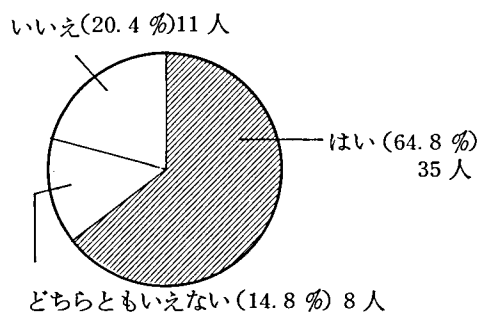
(1) 料理の手間がはぶけた



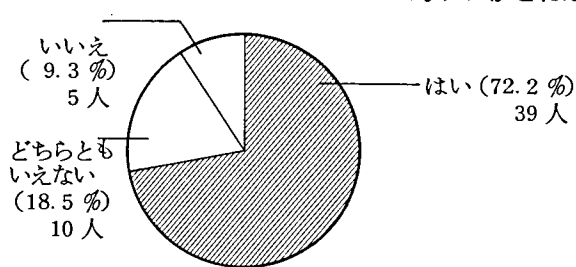
(2) 買物の手間がはぶけた



(3) 食事が楽しくなった

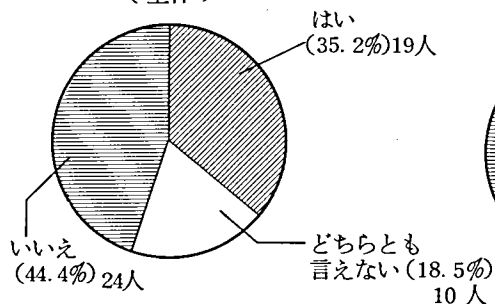


(4) 給食サービスの食事により栄養のバランスがとれた

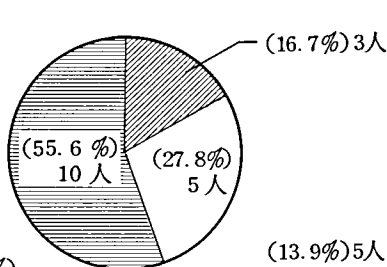


(5) 人と話す機会が増えた

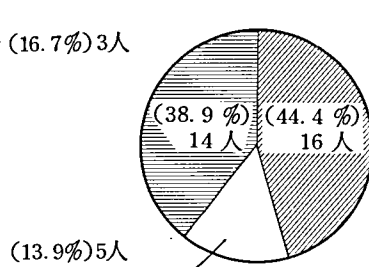
(全体)



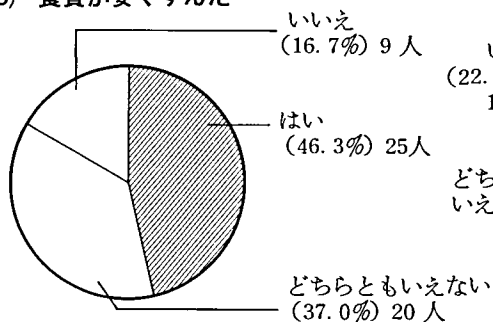
(男性)



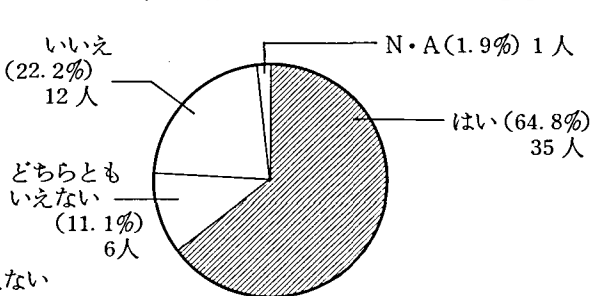
(女性)



(6) 食費が安くすんだ

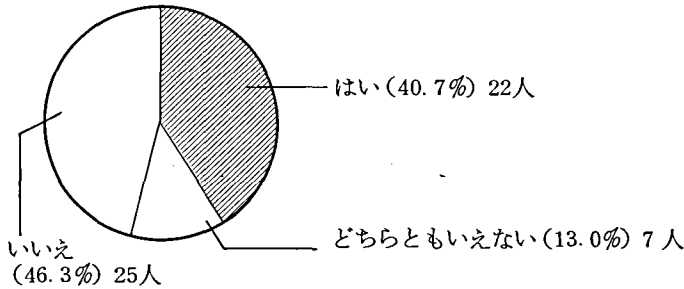


(7) 生活していく上で楽しみが増えた



※ 食費1回300円で月末に納入

(8) 他の福祉サービスにも関心を持つ様になった



5. 「ふれあいランチ」についての要望
「ふれあいランチ」についての要望についての回答結果を、図-2に示した。

改善の要望が多い順にあげると、「おかず」に関して20人(25.6%)が、次いで「ごはん」について18人(23.1%)、そして「サービス」と「弁当」についてがそれぞれ12人(15.4%)と続いた。

特に、「ごはん」が固いという訴えが多く目をひいた。

6. 「ふれあいランチ」の今後の利用について
「ふれあいランチ」の今後の利用についての回答結果を、図-3に示した。54人の内48人(88.9%)が、今後も利用を続けたいと回答した。

図-2 「ふれあいランチ」について何か要望はありますか(マルチ回答)(N=41)

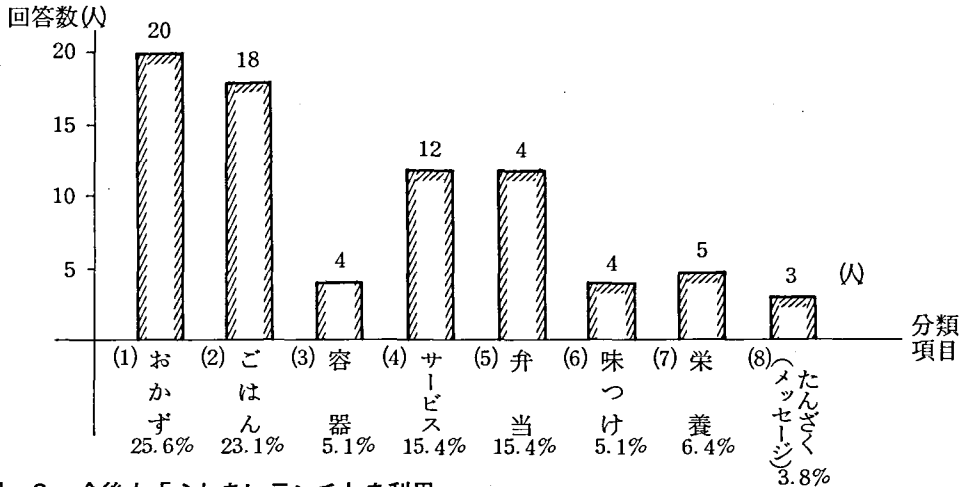
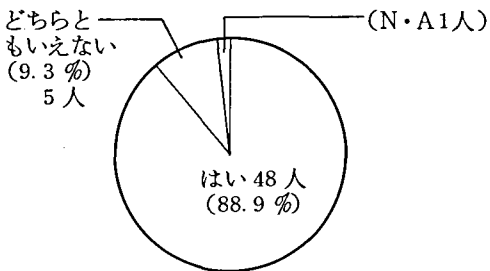


図-3 今後も「ふれあいランチ」を利用されますか(N=54)



Ⅳ. 3. ふだんの食事・調理について

1. ふだんの主な調理担当者

ふだんの主な調理担当者についての回答結果を、表-12に示した。

「自分」と回答した者が、全体で37人(71.2%)男で9人(52.9%)、女で28人(80.0%)、夫婦世帯で8人(50.0%)、独居世帯で27人(87.1%)であった。統計学的には、男女間および夫婦世帯

と独居世帯での有意差は認められなかった。独居世帯で自分以外の者が担当していると回答した者では「親類」1人、「ヘルパー」1人、「その他」か2人であった。

「自分」がふだんの主な調理担当者だと回答した者に、「自分で調理することは大変か」と問うた結果が表-12のSQ1に示してある。「大変」と回答した者が、男6人(66.7%)、女9人(32.1%)、夫婦世帯2人(25.0%)、独居世帯13人(48.1%)であった。統計学的には、男女間および夫婦世帯と独居世帯での有意差は認められなかった。表-12のSQ1で「大変だ」と回答した者に、どのようなことが大変と感ずるかを問うた結果を表-12のSQ1-SSQに示した。15人の内、

「おっくう」7人、「体が不自由」6人、「体が疲れる」5人、「作る張り合いがない」4人、「得意でない」3人であった。

自分が主な調理担当者でない15人に、「自分で調理しないのはなぜか」を問うた結果を表-13に示した。「体が不自由」7人、「得意でない」6人、「役割でない」5人、「おっくう」2人、「張り合いがない」1人であった。

同じく自分が主な調理担当者でない15人に、「他人に調理を頼むのはうまくいっているか」と問うた結果を表-14に示した。「うまくいっている」が11人、「うまくいっていない」が1人であった。

表-12 主に誰が調理をするのか

	自 分	配 偶 者	子 供 ・ 孫	親 類	近 所	ヘルパー	他	計
男	9(52.9)	6(35.3)	1(5.9)	0	0	0	1(5.9)	17(100.0)
女	28(80.0)	2(5.7)	0	1(2.9)	0	1(2.9)	3(8.6)	35(100.0)
夫 婦	8(50.0)	8(50.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	16(100.0)
独 居	27(87.1)	0(0.0)	0(0.0)	1(3.2)	0(0.0)	1(3.2)	2(6.5)	31(100.0)
他	2	0	1	0	0	0	2	5(100.0)
全 体	37(71.2)	8(15.4)	1(1.9)	1(1.9)	0	1(1.9)	4(15.3)	52(100.0)

→SQ1 自分で調理することは大変か

単位：人、()内%

	大 変 だ	大 変 で ない	計
男	6(66.7)	3(33.3)	9(100.0)
女	9(32.1)	19(67.9)	28(100.0)
夫 婦	2(25.0)	6(75.0)	8(100.0)
独 居	13(48.1)	14(51.9)	27(100.0)
他	0	2	2(100.0)
全 体	15(40.5)	22(59.5)	37(100.0)

(注1) 単位：人、()内%

(注2) 「自分」としたものについて回答をもとめた。

→SQ1-SSQ 自分で調理する時「大変だ」と思うこと(マルチ回答)(N=15)

項 目	性別・世帯別					計
	男	女	夫 婦	独 居	他	
1. 得意でない	2	1	2	1	0	3(20.0)
2. おっくう	3	4	2	5	0	7(46.7)
3. 体が不自由	2	4	1	5	0	6(40.0)
4. 体が疲れる	1	4	1	4	0	5(33.3)
5. 作る張り合いがない	1	3	1	3	0	4(26.7)
6. そ の 他	2	0	0	2	0	2(13.3)

(注) SQ1で大変であるとしたものに回答をもとめた

単位：人、()内%

表-13 自分で調理しないのはなぜか(マルチ回答)(N=15)

項目	性別・世帯別		男	女	夫婦	独居	他	計
1. 役割でない	5	0	5	0	0	0	5 (33.3)	
2. 得意でない	5	1	4	1	1	1	6 (40.0)	
3. おっくう	1	1	1	1	1	0	2 (13.3)	
4. 体が不自由	2	5	4	1	2	2	7 (46.7)	
5. 体が疲れる	0	0	0	0	0	0	0 (0.0)	
6. 張り合いがない	0	1	0	1	0	0	1 (6.7)	
7. その他	1	1	1	1	1	0	2 (13.3)	

(注1) 単位：人、()内%

(注2) 表-12で他人(自分以外の人)が調理すると回答したものにするSQである。

表-14 他人に調理をたのむのはうまくいっているか(N=15)

項目	性別・世帯別		男	女	夫婦	独居	他	計
1. うまくいっている	6	5	6	3	2	11 (73.3)		
2. どちらともいえない	2	1	1	1	1	3 (20)		
3. うまくいっていない	0	1	1	0	0	1 (6.7)		
全体	8	7	8	4	3	15 (100.0)		

(注1) 単位：人、()内%

(注2) 表-13の(注2)と同じ

2. ここ一週間の調理頻度

ここ一週間の調理頻度を、表-15に示した。

全体で、「毎回作った」32世帯(66.7%)、「一週間のうち半分以上作った」7世帯(14.6%)、「一週間のうち半分以下」5世帯(10.4%)、「全く作らなかった」4世帯(8.3%)であった。

3. ここ一週間での一日の食事回数

ここ一週間での一日の食事回数を、男女別には

表-16に、夫婦世帯・独居世帯別には表-17に示した。

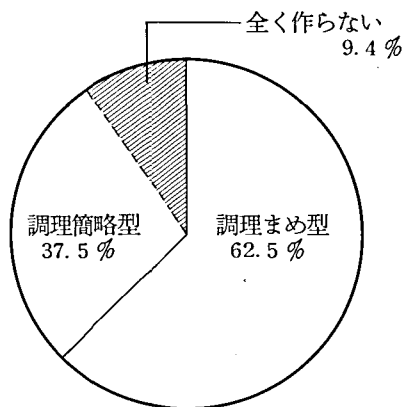
全体では「三回食事をとった」者が世帯(88.8%)、男で17人(94.4%)、女では31人(86.1%)であった。また、「三回食事をとった」者が夫婦世帯では10世帯(91.0%)、独居世帯では28世帯(87.5%)であった。

表-15 ここ一週間でもて、どれくらいお宅で調理して食事をしたか。(調理回数)

調理回数	世帯類型		夫婦(N=11)	独居(N=32)	その他(N=5)	全体(N=48)	
1. 毎回作った。	10	(90.9)	男6 女14	20 (62.5)	男0 女2	2 (40.0)	32 (66.7)
2. 一週間のうち半分以上作った	1	(9.1)	男0 女5	5 (15.6)	男1 女0	1 (20.0)	7 (14.6)
3. 一週間のうち半分以下	0	(0.0)	男0 女4	4 (12.5)	男0 女1	1 (20.0)	5 (10.4)
4. 全く作らなかった	0	(0.0)	男1 女2	3 (9.4)	男0 女1	1 (20.0)	4 (8.3)
計	11	(100.0)	男7 女25	32 (100.0)	男1 女4	5 (100.0)	48 (100.0)

単位：世帯数、()内%

図-4 独居世帯における調理回数の割合



※ 全く作らない理由

(料理をすることが得意でないから食事を)
作るはりあいがないから
その他)

※ 「全く作らない」人は誰に調理してもらっているか。

(娘に作ってもらう
家政婦に頼む
おそうざいを買ってくる。)

(注1) 「調理まめ型」とは「毎回作る」に回答したものとした。

(注2) 「調理簡略型」とは「一週間のうち半分以上作る」「全く作らない」、「一週間のうち半分以下は作る」に回答したものとした。

表-16 ここ一週間での一日の食事回数(男女別)

食事回数	性別	男(N=18)	女(N=36)	計(N=54)
1. 一回食事をとった		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 二回食事をとった		1 (5.5)	4 (11.1)	5 (9.3)
3. 三回食事をとった		17 (94.4)	31 (86.1)	48 (88.8)
4. その他		0 (0.0)	1 (2.8)	1 (1.8)
計		18 (100.0)	36 (100.0)	54 (100.0)

単位：人、()内%

表-17 ここ一週間での一日の食事回数(夫婦・独居別)

	夫婦(N=11)	独居(N=32)	その他(N=5)	計(N=48)
1. 一回食事をとった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
2. 二回食事をとった	1 (9.0)	4 (12.5)	0 (0.0)	5 (10.4)
3. 三回食事をとった	10 (91.0)	28 (87.5)	4 (80.0)	42 (87.5)
4. その他	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (4.2)
計	11 (100.0)	32 (100.0)	5 (100.0)	48 (100.0)

(注1) 単位：世帯数、()内%

(注2) 「その他」の回答

- 1日に6回食事をとる。
- 胃の手術をし、1度に沢山食べられないから。

(注3) 「2回食事をとる」の回答について

- 食事をいつとっているか
- 1. 朝食と昼食 1人
- 2. 朝食と夕食 1人
- 3. 昼食と夕食 3人

(注4) 理由

- 1. 習慣だから 3人
- 2. 食欲がないから 1人
- 3. 晩酌が夕食代わり 1人

Ⅳ. 4. ここ一週間の食料品の買い物について

1. ここ一週間で食料品の買い物に出かけた日数
 ここ一週間の食料品の買い物に出かけた日数を、
 表-18に示した。

全体では「毎日」が4人(7.7%)、「4~6日」が5人(9.6%)、「3日」が6人(11.5%)

「1~2日」が24人(46.2%)、「なし」が13人(25.0%)であった。一週間の食料品の買い物に出かける日数は、約半数は「1~2日」で済ませており、「なし」とする者も約四分の一いることがわかった。

表-18 一週間で食料品の買い物に何日いったか

	7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日	計
男	0	0	0	1 (5.9)	2 (11.8)	6 (35.3)	3 (17.6)	5 (29.4)	17 (100.0)
女	4 (11.4)	1 (2.9)	1 (2.9)	2 (5.7)	4 (11.4)	10 (28.6)	5 (14.3)	8 (22.9)	35 (100.0)
夫婦	3	1	0	1	3	4	0	4	16
独居	1	0	1	2	3	12	6	6	31
他	0	0	0	0	0	0	2	3	5
全体	4 (7.7)	1 (1.9)	1 (1.9)	3 (5.8)	6 (11.5)	16 (30.8)	8 (15.4)	13 (25.0)	52 (100.0)

単位：人、()内%

2. 食料品の買い物の主な担当者

食料品の買い物の主な担当者を、表-19に示した。

全体では、「自分」が27人(51.9%)、「配偶者」が8人(15.4%)、「子供・孫」が4人(7.7%)であった。半数は、「自分」であった。男では、「自分」が8人(47.1%)、「配偶者」が5人(29.4%)であった。女では、「自分」が19人(54.3%)、「配偶者」が3人(8.6%)であった。統計学的には、男女間に有意差は認められなかった。

食料品の買い物の主な担当者は「自分」であると回答した者に「自分で食料品の買い物をすることは大変か」と問うた結果を、表-19のSQ1に示した。「大変だ」と回答したものは、全体では11人(40.7%)、男で4人(50.0%)、女で7人(36.8%)であった。

「自分で食料品の買い物をする時、大変だと思

うことは何か」を問うた回答結果を、表-20に示した。全体では、「店が遠い」6人(54.5%)、「体が疲れる」6人(54.5%)であった。

自分で食料品の買い物に行かないと回答した者に「自分で買い物に行かないのはなぜか」と問うた回答結果を、表-21に示した。さらに、「他人に買い物を頼むのはうまくいっているか」と問うた回答結果を、表-22に示した。自分で食料品の買い物に行かない理由では、「体が不自由」が12(48.0%)、「買い物がおっくう」と「役割でない」とがそれぞれ5人(20.0%)、「店が遠い」、「体が疲れる」、「人ごみが煩わしい」がそれぞれ4人(16.0%)であった。「他人に買い物を頼むのはうまくいっているか」では、「うまくいっている」が23人(92.0%)、「うまくいっていない」は1人(4.0%)であった。

表-19 主に誰が食料品の買物をするのか

性別	項目	自 分	配 偶 者	子 供 ・ 孫	親 類	近 所	ヘルパー	他	計
男		8	5	1	0	0	1	2	17
		(47.1)	(29.4)	(5.9)			(5.9)	(11.8)	(100.0)
女		19	3	3	3	1	2	4	35
		(54.3)	(8.6)	(8.6)	(8.6)	(2.9)	(5.7)	(11.4)	(100.0)
夫 婦		8	8	0	0	0	0	0	16
		(50.0)	(50.0)						(100.0)
独 居		19	0	2	3	1	3	3	31
		(61.3)	(0.0)	(6.5)	(9.7)	(3.2)	(9.7)	(9.7)	(100.0)
他		0	0	2	0	0	0	3	5
全 体		27	8	4	3	1	3	6	52
		(51.9)	(15.4)	(7.7)	(5.8)	(1.9)	(5.8)	(11.5)	(100.0)

単位：人、()内%

—SQ1 自分で食料品の買物をすることは大変か

性別	項目	大 変 だ	大 変 で ない	計
男		4 (50.0)	4 (50.0)	8 (100.0)
女		7 (36.8)	12 (63.1)	19 (100.0)
夫 婦		2	6	8
独 居		9	10	19
他		0	0	0
全 体		11 (40.7)	16 (59.3)	27 (100.0)

表-19で自分としたものについて回答をもとめた。

単位：人、()内%

表-20 自分で買物をする時、大変だと思うこと(マルチ回答)

(N=11)

項目	性別・世帯別	男	女	夫 婦	独 居	他	計
1. 店が遠い		2	4	1	5	0	6 (54.5)
2. 交通量の多い道を通る		0	1	0	1	0	1 (9.1)
3. 体が不自由		1	1	0	2	0	2 (18.2)
4. 体が疲れる		3	3	1	5	0	6 (54.5)
5. 人ごみが煩しい		1	1	1	1	0	2 (18.2)
6. 買物がおっくう		1	1	1	1	0	2 (18.2)
7. 他		1	2	1	2	0	3 (27.3)

(注1) 単位：人、()内%

(注2) SQ1で大変であるとしたものに回答をもとめた

表-21 自分で買物に行かないのはなぜか(マルチ回答)

(N=25)

項目	性別・世帯別	男	女	夫 婦	独 居	他	計
1. 役割でない		3	2	4	0	1	5 (20.0)
2. 店が遠い		1	3	0	2	2	4 (16.0)
3. 交通量の多い道を通る		0	0	0	0	0	0 (0.0)
4. 体が不自由		4	8	5	4	3	12 (48.0)
5. 体が疲れる		1	3	0	3	1	4 (16.0)
6. 人ごみが煩しい		2	2	2	2	0	4 (16.0)
7. 買物がおっくう		2	3	1	3	1	5 (20.0)
8. 他		2	5	0	6	1	7 (28.0)

(注1) 単位：人、()内%

(注2) 表-23で他人(自分以外の人)が買物をするとしたものに回答を求めた

表-22 他人に買物をたのむのはうまくいっているか

(N=25)

項目	性別・世帯別		夫 婦		独 居		他		計
	男	女							
1. うまくいっている	8	15	8	11	4	23 (92.0)			
2. どちらともいえない	1	0	0	0	1	1 (4.0)			
3. うまくいっていない	0	1	0	1	0	1 (4.0)			
全 体	9	16	8	12	5	25(100.0)			

単位：人、()内%

算力等の身体的活動と精神活動の日常的障害を12項目の質問による測定を試みた結果を表-23に示した。これをみると、歩行や立ち座りと粗大筋力作業および物忘れに不自由度が高い傾向が読みとられた。老化は、足と頭から始まると考えられた。

IV. 5. 身体的不自由度について

1. 身体的不自由度

身体的不自由度について、聴力、視力、歩行、立ち座り、巧緻作業、粗大筋力作業、物忘れ、計

表-23 身体的不自由度

質問項目	男・女・全体				男 (N=18)				女 (N=36)				全体 (N=54)											
	回答				よ	く	ときどき	ほとんど	よ	く	ときどき	ほとんど	よ	く	ときどき	ほとんど								
	あ	る	ある	ない	あ	る	ある	ない	あ	る	ある	ない	あ	る	ある	ない								
1. 人との会話が聞きとり にくい	4	5	9		(22.2)	(27.8)	(50.0)		2	4	30		(5.6)	(11.1)	(83.3)		6	9	39		(11.1)	(16.7)	(72.2)	
2. 電話の声が聞きとり にくい	3	0	15		(16.7)	(0.0)	(83.3)		2	4	30		(5.6)	(11.1)	(83.3)		5	4	45		(9.3)	(7.4)	(83.3)	
3. 新聞や雑誌の字が読み にくい	5	1	12		(27.8)	(5.6)	(66.7)		6	5	25		(16.7)	(13.9)	(69.4)		11	6	37		(20.4)	(11.1)	(68.5)	
4. 1m位離れている人の 顔がぼやけて見えにくい	2	0	16		(11.1)	(0.0)	(88.9)		3	2	31		(8.3)	(5.6)	(86.1)		5	2	47		(9.3)	(3.7)	(87.0)	
5. つまずいたり転んだり する	2	3	13		(11.1)	(16.7)	(72.2)		9	7	20		(25.0)	(19.4)	(55.6)		11	10	33		(20.4)	(18.5)	(61.1)	
6. 階段の昇り降りが困難	6	3	9		(33.3)	(16.7)	(50.0)		17	5	14		(47.2)	(13.9)	(38.9)		23	8	23		(42.6)	(14.8)	(42.6)	
7. 畳に座っていて一人で 立ち上がりにくい	4	4	10		(22.2)	(22.2)	(55.6)		13	7	16		(36.1)	19.4)	(44.4)		17	11	26		(31.5)	(20.4)	(48.1)	
8. おはしで豆などの細かい ものがつまみにくい	0	2	16		(0.0)	(11.1)	(88.9)		2	2	32		(5.6)	(5.6)	(88.9)		2	4	48		3.7)	(7.4)	(88.9)	
9. 布団の上げおろしがで きにくい	6	1	11		(33.3)	(5.6)	(61.1)		19	2	15		(52.8)	(5.6)	(41.7)		25	3	26		(46.3)	(5.6)	(48.1)	
10. ぞうきんやふきんが絞 りにくい	3	2	13		(16.7)	(11.1)	(72.2)		5	3	28		(13.9)	(8.3)	(77.8)		8	5	41		(14.8)	(9.3)	(75.9)	
11. 立ち上がった瞬間に何 をしようとしたか忘れる	3	5	10		(16.7)	(27.8)	(55.6)		16	13	7		(44.4)	(36.1)	(19.4)		19	18	17		(35.2)	(33.3)	(31.5)	
12. おつりの計算ができに くい	2	3	13		(11.1)	(16.7)	(72.2)		6	3	27		(16.7)	(8.3)	(75.0)		8	6	40		(14.8)	(11.1)	(74.1)	

単位：人、()内%

2. 身体的不自由度の得点分布

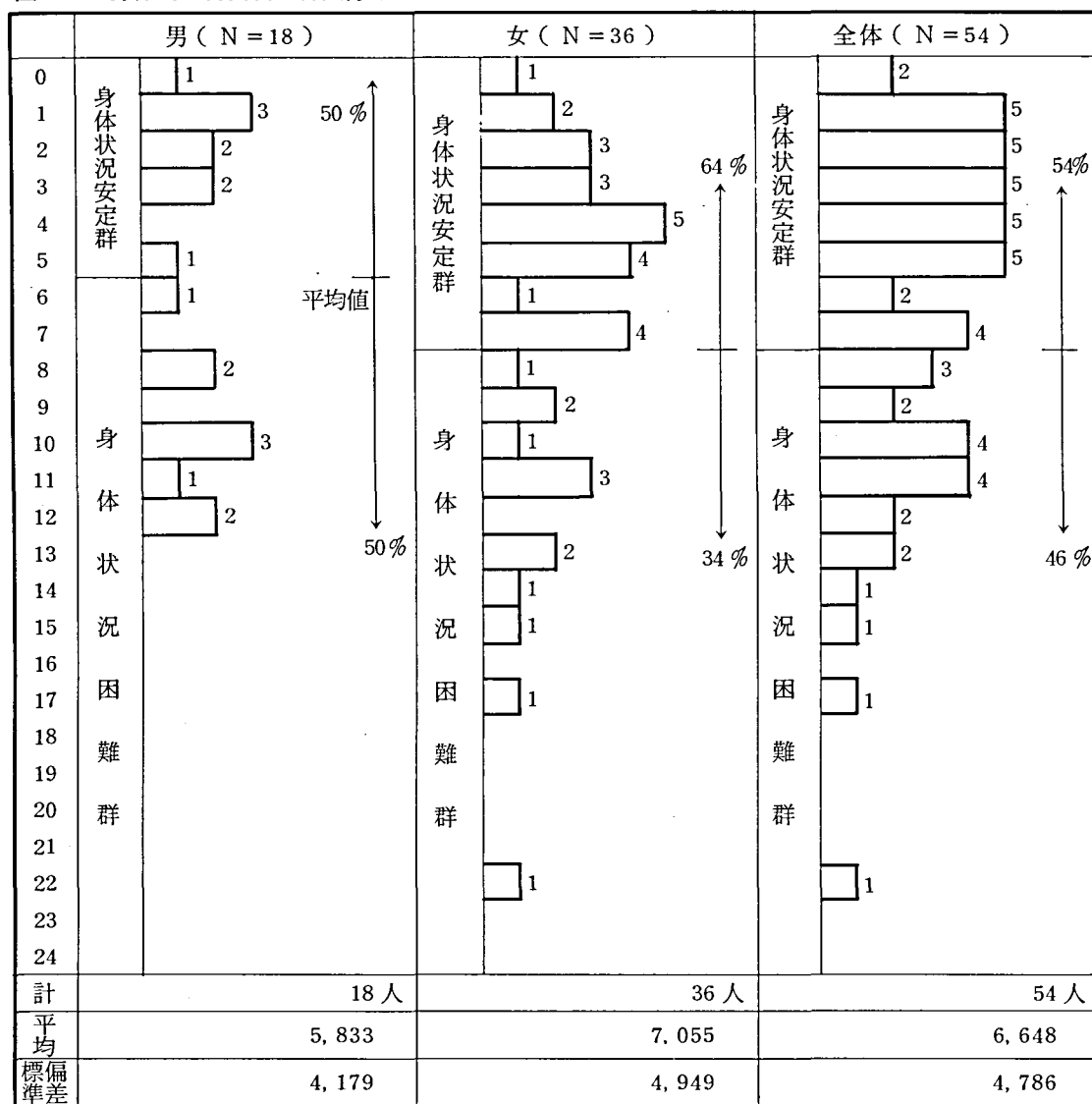
表-23に示したの質問項目のそれぞれ「よくある」を2点、「ときどきある」を1点、「ほとんどない」を0点としてスコア化して示したのが図-5である。男女および全体について、それぞれの群の平均スコアよりスコア群を「身体状況困

難群」とし、低いスコア群を「身体状況安定群」とした。男女間では、平均スコアおよびスコア分布に統計学的な有意差が認められなかった。

身体的不自由度のスコアと男女別、年齢、人間関係のサポート・ネットワークのスコア、「ふれあいランチ」利用回数、夫婦世帯・独居世帯別と

の検定では、それぞれ相関や有意差は認められな かった。

図-5 身体的不自由度の得点分布



× 統計的有意差なし

(注) 表-23の回答の「よくある」を2点、「ときどきある」を1点、「ほとんどない」を0点として、最高24点として計算した。又、男、女、それぞれの平均未満を「身体状況安定群」、平均以上を「身体状況困難群」として規定したものである。

3. 食事を制限しなくてはならない病気の有無について、表-24に示した。

食事の制限の必要な病気のある者が、全体で18人(33.3%)、男で7人(38.9%)、女で11人

(30.6%)であった。病名をみると、全体で最も多いのが「高血圧」で9人、ついで「心臓病」で5人、「糖尿病」2人であった。老人の配食サービスには、こうした病気の管理食の配慮が必要であることが示唆された。

表-24 食事を制限しなくてはならない病気の有無

回答	性別	男 (N = 18)	女 (N = 36)	全体 (N = 54)
食事を制限される病気はない		11 人 (61.1)	25 人 (69.4)	36 人 (66.7)
“ ある		7 人 (38.9)	11 人 (30.6)	18 人 (33.3)

回答	性別	男 (N = 7)	女 (N = 11)	全体 (N = 18)
2. 糖 尿 病		0 人	2 人	2 人 (11.1)
3. 高 血 圧		4	5	9 (50.0)
4. 肝 臓 病		0	0	0 (0.0)
5. 腎 臓 病		1	0	1 (5.6)
6. 心 臓 病		2	3	5 (27.8)
7. ア レ ル ギ ー		0	0	0 (0.0)
8. そ の 他		4	3	7 (38.9)

単位：人、()内%

IV. 6. 健康管理状況について

1. 健康管理状況

健康管理状況を測定するために表-25に示した食事・栄養・塩分・味に関する項目、酒・煙草等の嗜好に関する項目、有害食品に関する項目、睡眠・休養に関する項目、運動・体操に関する項目

など16項目の保健行動に関する質問をした。その回答結果を、表-25に示した。

全体的にみると、食行動に関する保健行動をはじめとしたあれこれの保健行動をとり、健康管理にこころを配っているお年寄りが多いことがわかった。

質問項目	男・女・全体 回答			男 (N = 18)			女 (N = 36)			全体 (N = 54)		
	1. はい	2. どちらともいえない	3. いいえ	1. はい	2. どちらともいえない	3. いいえ	1. はい	2. どちらともいえない	3. いいえ	1. はい	2. どちらともいえない	3. いいえ
1. 毎日規則正しく食事をとる	18 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	33 (91.7)	0 (0.0)	3 (8.3)	51 (94.4)	0 (0.0)	3 (5.6)			
2. 毎食野菜を多くとる	15 (83.3)	2 (11.1)	1 (5.6)	27 (75.0)	4 (11.1)	5 (13.9)	42 (77.8)	6 (11.1)	6 (11.1)			
3. 甘味の飲食物はできるだけひかえる	10 (55.6)	2 (11.1)	6 (33.3)	25 (69.4)	3 (8.3)	8 (22.2)	35 (64.8)	5 (9.3)	14 (25.9)			
4. 塩からいものはできるだけひかえる	14 (77.8)	1 (5.6)	3 (16.7)	31 (86.1)	1 (2.8)	4 (11.1)	45 (83.3)	2 (3.7)	7 (13.0)			
5. とうふ等の大豆製品をとるようにしている	14 (77.8)	3 (16.7)	1 (5.6)	33 (91.7)	1 (2.8)	2 (5.6)	47 (87.0)	4 (7.4)	3 (5.6)			
6. タバコは吸わないようにしている	13 (72.2)	0 (0.0)	5 (27.8)	30 (83.3)	1 (2.8)	5 (13.9)	43 (79.6)	1 (1.9)	10 (18.5)			
7. 酒はなるべく飲まないようにしている	13 (72.2)	3 (16.7)	2 (11.1)	32 (88.9)	1 (2.8)	3 (8.3)	45 (83.3)	4 (7.4)	5 (9.3)			
8. 間食や夜食をひかえている	13 (72.2)	3 (16.7)	2 (11.1)	23 (63.9)	8 (22.2)	5 (13.9)	36 (66.7)	11 (20.4)	7 (13.0)			
9. 油っこい食品はひかえている	12 (66.7)	2 (11.1)	4 (22.2)	24 (66.7)	7 (19.4)	5 (13.9)	36 (66.7)	9 (16.7)	9 (16.7)			
10. 添加物・着色料の少ないものを食べる	14 (77.8)	3 (16.7)	1 (5.6)	27 (75.0)	4 (11.1)	5 (13.9)	41 (75.9)	7 (13.0)	6 (11.1)			
11. インスタントものを食べるのをひかえている	16 (88.9)	1 (5.6)	1 (5.6)	30 (83.3)	1 (2.8)	5 (13.9)	46 (85.2)	2 (3.7)	6 (11.1)			
12. 缶詰・おそうざいなど食べるのをひかえている	11 (61.1)	5 (27.8)	2 (11.1)	22 (61.1)	9 (25.0)	5 (13.9)	33 (61.1)	14 (25.9)	7 (13.0)			
13. 十分な睡眠時間をとっている	17 (94.4)	1 (5.6)	0 (0.0)	26 (72.2)	3 (8.3)	7 (19.4)	43 (79.6)	4 (7.4)	7 (13.0)			
14. 夜ふかしをしないようにしている	17 (94.4)	0 (0.0)	1 (5.6)	28 (77.8)	2 (5.6)	6 (16.7)	45 (83.3)	2 (3.7)	7 (13.0)			
15. 歩いたり、体操等の軽い運動をするようにしている	14 (77.8)	1 (5.6)	3 (16.7)	22 (61.1)	4 (11.1)	10 (29.8)	36 (66.7)	5 (9.3)	13 (24.1)			
16. スポーツやジョギング等の適当な運動をしている	5 (27.8)	1 (5.6)	12 (66.7)	10 (27.8)	1 (2.8)	25 (69.4)	15 (27.8)	2 (3.7)	37 (68.5)			

単位：人、()内%

2. 健康管理状況の得点分布

表-25に示した16の質問項目のそれぞれ「はい」を1点、「どちらともいえない」と「いいえ」を0点としてスコア化して示したのが、図-6である。男女および全体について、それぞれの群の平均スコアより高いスコア群を「健康管理積極群」とし、低いスコア群を「健康管理非積極群」とした。男女間では、平均スコアおよびスコア分布に統計学的な有意差が認められなかった。

健康管理のスコアと男女別、年齢、人間関係サポート・ネットワークのスコア、「ふれあいランチ」利用回数との関連を検定したが、いずれも統計学的な有意の差や相関を認められなかった。健康管理のスコアと身体的不自由度のスコアでは、健康管理のスコアの高い者に身体的不自由度のスコアが有意に低い傾向が認められた。しかし、身体的不自由度のスコアが高い者に健康管理のスコアが有意に低いとはいえなかった。

図-6 健康管理状況の得点

点性	男 (N = 18)	女 (N = 36)	全体 (N = 54)
0			
1			
2			
3			
4			
5		1	1
6			
7		1	1
8	1	1	2
9	2	4	6
10		2	2
11	4	8	12
12	3	6	9
13	5	5	10
14		2	2
15	3	5	8
16		1	1
計	18 人	36 人	54 人
平均	12.0	11.66	11.77
S D	± 1.9720	± 2.4267	± 2.3121

× 統計的有意差なし

(注1) 表-29の健康管理の回答について「はい」を1点、「どちらとも言えない」と「いいえ」を0点、最高点を16点として計算した。

(注2) 男女それぞれの、平均未満を「健康管理非積極群」、平均以上と「積極群」として規定したものである。

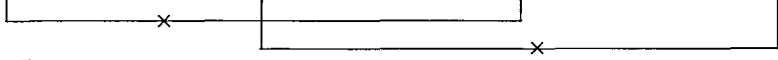
3. 病気の有無と健康管理状況

現在、「病気のある人」と「病気のない人」の群について、それぞれ健康管理のスコアを算出してその分布を示したものが図-7である。

両群の平均スコアと男女間のスコアに、統計学的な有意差は認められなかった。したがって、病気のある、なしにかかわらずあれこれの保健行動をとっているといえた。

図-7 病気の有無と健康管理状況

	病 気 が あ る 人		病 気 の な い 人	
	男 (N = 18)	女 (N = 36)	男 (N = 18)	女 (N = 36)
0				
1				
2				
3				
4				
5		●		
6				
7				●
8			●	●
9		●	● ● ●	● ● ●
10				● ●
11	● ●	●	● ●	● ● ● ● ● ● ● ●
12	● ●	●	●	● ● ● ● ● ●
13	● ● ●	● ● ●	●	● ●
14		●		●
15		● ● ●	● ● ●	● ●
16				●
平均	12.14	12.27	11.54	11.4
S D	± 0.83	± 2.89	± 2.53	± 2.13



全体 (N = 54)

平均・SD	病気の有無	病気のある人	病気の無い人
平均		12.222	11.444
S D		± 2.3227	± 2.2662

(注) ×印は、統計的有意差の認められないもの

IV. 7. 入れ歯と食生活について

1. 入れ歯の有無

入れ歯の有無について、表-26に示した。

「入れ歯」の者は、全体で40人(74.1%)、男で16人、女で24人(66.7%)であった。

表-26 入れ歯の有無

回答	性別	男 (N=18)	女 (N=36)	全体 (N=54)
1. 入れ歯		16 (88.9)	24 (66.7)	40 (74.1)
2. 入れ歯でない		2 (11.1)	12 (33.3)	14 (25.9)

単位：人、()内% 小数点以下四捨五入

2. 歯が原因で食べられないもの

歯が原因で食べられないものについて問うた回答結果を、表-27に示した。

全体では、「キャラメルのような歯にくっつくもの」19人(35.2%)、「煎餅のような固いもの」17人(31.5%)、「肉のようなかみきれないもの」16人(29.6%)、「ごまのような固くて細かいもの」14人(25.9%)、「野菜菜のような歯にはさまるもの」10人(18.5%)という順序であった。このように、配食サービスの献立に、配慮が必要であることが示唆された。

また、「食べられないものはない」と回答した者は、全体で18人(33.3%)、男6人(33.3%)、女12人(33.3%)であった。

表-27 歯が原因で食べられないもの（マルチ回答）

回答	性別		
	男(18人)	女(36人)	全体(54人)
1. 食べられないものはない	6 (33.3)	12 (33.3)	18 (33.3)
2. せんべいのようなかたいもの	5 (27.8)	12 (33.3)	17 (31.5)
3. 肉のようなかみきれないもの	5 (27.8)	11 (30.6)	16 (29.6)
4. キャラメルのような歯にくっつくもの	6 (33.3)	13 (36.1)	19 (35.2)
5. ゴマのようなかたくて細かいもの	4 (22.2)	10 (27.8)	14 (25.9)
6. 野沢菜のような歯にはさまるもの	3 (16.7)	7 (19.4)	10 (18.5)
7. その他	0 (0.0)	5 (13.9)	5 (9.3)

(注1) 単位：人、()内%

- (注2) その他の回答は、① たけのこのようなかたいもの
 ② うりづけ
 ③ ほうれん草などのやわらかいもの
 ④ ぐちゃぐちゃしたもの
 ⑤ 普通に炊いた御飯（おかゆしか食べられない人）（各1人ずつ）

Ⅳ. 8. 人間関係について

1. サポート・ネットワーク

人間関係についてみるために、表-28の(1)~(3)に示したように13項目の質問によってサポート・ネットワークの測定を試みた。

各項目についての回答結果は、表-28に示したとおりであった。

- (3) あなたには、常日頃あなたの気持ちを敏感に察してくれる人がいますか。

	男	女	計
い る	14 (77.8)	25 (69.4)	39 (72.2)
いない	4 (22.2)	11 (30.6)	15 (27.8)
N・A	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

表-28 サポート・ネットワークについて

- (1) あなたには、会うと心が落ちつき安心できる人がいますか。

	男	女	計
い る	15 (83.3)	31 (86.1)	46 (85.2)
いない	3 (16.7)	5 (13.9)	8 (14.8)
N・A	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

- (4) あなたには、あなたを日頃認め、評価してくれる人がいますか。

	男	女	計
い る	13 (72.2)	26 (72.2)	39 (72.2)
いない	5 (27.8)	10 (0)	15 (27.8)
N・A	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

- (2) あなたには気持ちの通じ合う人がいますか。

	男	女	計
い る	15 (83.3)	31 (86.1)	46 (85.2)
いない	3 (16.7)	4 (11.1)	7 (13.0)
N・A	0 (0)	1 (2.3)	1 (1.9)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

- (5) あなたには、あなたを信じてあなたの思うようにさせてくれる人がいますか。

	男	女	計
い る	10 (55.6)	20 (55.5)	30 (55.5)
いない	8 (44.4)	14 (38.9)	22 (40.7)
N・A	0 (0)	2 (5.5)	2 (3.7)
計	18(100.0)	34(100.0)	54(100.0)

(6) あなたには、あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる人がいますか。

	男	女	計
い る	14 (77.7)	26 (72.2)	40 (74.1)
いない	4 (22.2)	10 (27.7)	14 (25.9)
N・A	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

(7) あなたには経済的に困っている時に、頼りになる人がいますか。

	男	女	計
い る	14 (77.7)	30 (83.3)	44 (81.5)
いない	4 (22.2)	6 (16.7)	10 (18.5)
N・A	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

(8) あなたには、あなたが病気で寝込んだ時に、身のまわりの世話をしてくれる人がいますか。

	男	女	計
い る	11 (61.1)	31 (86.1)	42 (77.7)
いない	7 (38.8)	5 (13.8)	12 (22.2)
N・A	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

(9) あなたには、食事の準備を手伝ってくれる人がいますか。

	男	女	計
い る	12 (66.6)	23 (63.8)	35 (64.8)
いない	5 (27.7)	13 (36.1)	18 (33.3)
N・A	1 (5.5)	0 (0)	1 (1.9)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

(10) 同居している人以外で、余暇や買物などと一緒に掛ける人がいますか。

	男	女	計
い る	5 (27.7)	19 (52.7)	24 (44.4)
いない	13 (72.2)	17 (47.2)	30 (55.5)
N・A	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

(11) あなたには、個人的な気持ちや秘密を打ちあけることのできる人がいますか。

	男	女	計
い る	15 (83.3)	29 (80.5)	44 (81.5)
いない	3 (16.6)	7 (19.4)	10 (18.5)
N・A	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

(12) あなたには、お互いの考えや将来のことなどを話し合うことのできる人がいますか。

	男	女	計
い る	12 (66.6)	32 (88.8)	44 (81.5)
いない	6 (33.3)	4 (11.1)	10 (18.5)
N・A	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18(100.0)	36(100.0)	54(100.0)

(13) あなたには、甘えられる人がいますか

	男	女	計
い る	10 (55.5)	20 (55.5)	30 (55.5)
いない	8 (44.4)	16 (44.4)	24 (44.4)
N・A	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	18(100.0)	34(100.0)	54(100.0)

単位：人、()内%

2. サポート・ネットワークのスコア

表-28に示した13項目の回答について、それぞれ「いる」を1点、「いない」を0点としてスコア化した。そのスコア分布が、男女別には表-29に、夫婦世帯・独居世帯別には図-8に示した。

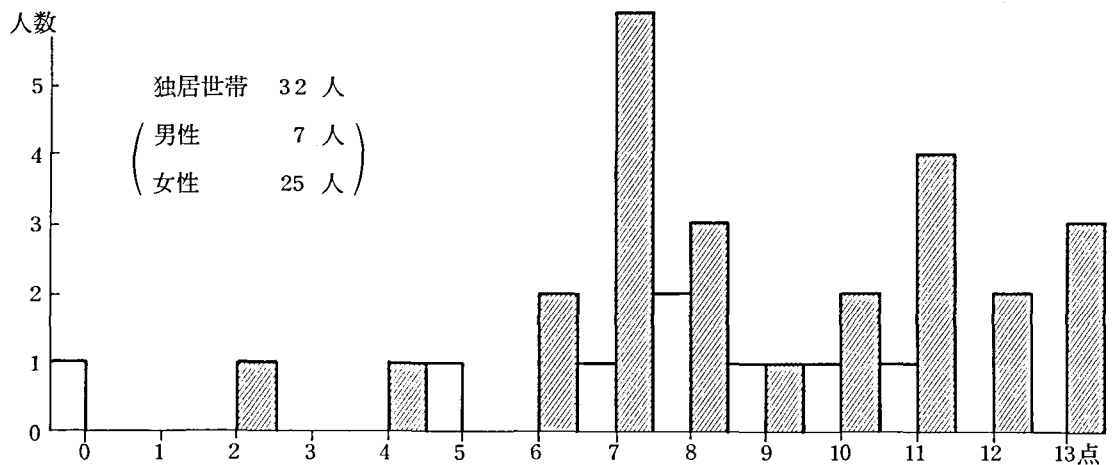
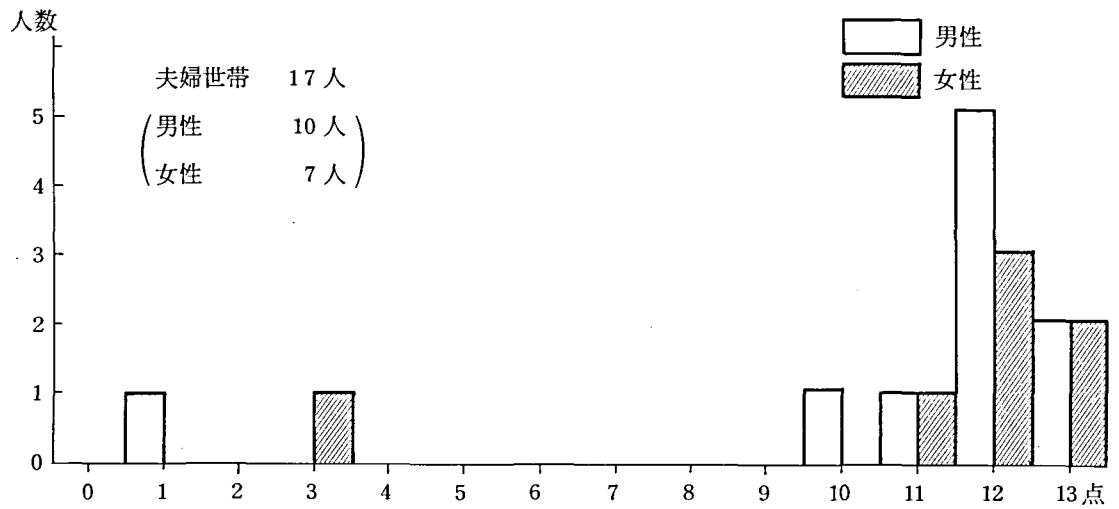
男女別の平均スコアでは、統計学的有意の差が認められなかった。夫婦世帯・独居世帯別の平均スコアでは、夫婦世帯のスコアが10.76(標準偏差 3.473)、独居世帯の平均スコアが8.37(標準偏差 3.049)で、 $P < 0.05$ の水準で有意差が認められた。したがって、独居世帯より夫婦世帯の方が人間関係によるサポート・ネットワークが強いといえた。

表-29 サポート・ネットワークの男女別スコアの分布

	全 体	男	女		全 体	男	女
0	1	1	0	9	2	1	1
1	1	1	0	10	3	1	2
2	1	0	1	11	8	2	6
3	1	0	1	12	13	5	8
4	1	0	1	13	7	2	5
5	2	2	0	合計	54	18	36
6	2	0	2	平均	9.33	8.94	9.53
7	7	1	6	S D	3.65	3.86	2.99
8	5	2	3				

単位：人

図-8 サポート・ネットワークの世帯別スコア分布



V ま と め

V 1. 調査結果のまとめ

1. 調査対象の標本数が少なく、さらに有効サンプル数が少なかったため、類型化しての比較の際に検定が困難であった。
2. 1988年5月から開始された「ふれあいランチ」については、上田市社会福祉協議会が期待した「ふれあい」の目的について利用者には一定の評価を得ていて成果が認められた。
3. しかし、「配食サービス」の本来の目的である食事の提供については、上田市全域でどのくらいのニーズがあり、今回調査できた対象者はその中でどのくらいがカバーされているのかが不明であった。さらに、調査結果から読みとれるように、現在の利用者からもランチの改善の希望が出されており、幾つかの改善点も明らかになった。
4. 食事の調理は、人間が「いきる」ための生活行動の一つであるので、老人世帯にあっては、さまざまな問題を抱えつつも食事をそれなりに成立させていることが明らかになった。このさまざまな問題についてのソーシャル・サポートのために、給食サービス等の社会福祉行政サービスの充実した提供の必要性が示唆されたといえた。
5. 食料品の買い物においても、調理・食事の前提となる生活行動の一つである。ここにも、老人世帯ではさまざまな問題が内在していることが読みとれた。これに対しても、地域福祉としてソーシャル・サポートのシステムが必要であることが明らかになった。
6. 老化等にもなう心身の退行や病気のなかでの生活障害が存在していることがわかった。これに対して、老人はあれこれの保健行動に気を配りながら、自助努力していることが明らかになった。したがって、これに対しても、ソーシャル・サポートのシステムを充実させる必要があることがわかった。
7. 人間関係についても、パーソナルおよびソーシャルなネットワークを活用して生活が展開されていることがわかった。しかし、このネットワークが不足している者もいることがわかった。したがって、人間関係で情緒面でのサポート・

システムも地域福祉の大切な課題であることがわかった。この意味でも、「ふれあいランチ」の一層の充実と広がりが期待された。

V 2. 社会福祉援助技術演習としての社会福祉調査実習のまとめ

1. 社会福祉学を学ぶ学生にとって、社会調査の方法を実際に演習することは必要不可欠なプログラムであることが演習過程で明らかになった。演習において、講義での知識だけでは行動化できない学生が多かった。
2. 演習にあたって、社会調査法の知識は不可欠な要素であるが、問題解決技法とグループ・ワークのトレーニング・プログラム強化も必要であることが明らかとなった。
3. 先の二つの意味からも、調査の企画の検討の段階から、調査目的の明確化、調査項目の選定、調査票の作成、訪問面接調査の実施、集計・分析、報告のまとめと報告会の開催等の全過程は、総合的な社会福祉援助技術演習のプログラムとして有効だと考えられた。
4. 調査の全過程においていえることではあるが、とくに集計・分析の過程において情報処理技術の知識の修得と演習のプログラムが必要であると思われた。
5. 今後の課題として、限られた短い期間と時間の中で演習生を行動化させ、実証的な調査研究課題を一定レベルでクリアーできるトレーニング・プログラムの開発が急がれなくてはならないと考えられた。

VI 調査票

教 員	DATE12	サイン
チェック	DATE12	サイン

対象者No.

1988年12月

「ふれあいランチ」利用者実態調査

基本情報

I. 調査対象者氏名: _____

II. 住 所: 上田市 地区分類

III. 電 話: () _____

IV. 性 別: 1. 男 2. 女

V. 世帯分類: 1. 独居 2. 夫婦 3. その他()

VI 配食申し込み数: 月 火 水 木 金 ()回

調査員情報

調査員名: 1 _____ 2 _____ 3 _____

グループ名()

調査日: 1. 月 日午前・午後 時 分～ 時 分・不在・不能

2. 月 日午前・午後 時 分～ 時 分・不在・不能

3. 月 日午前・午後 時 分～ 時 分・不在・不能

4. 月 日午前・午後 時 分～ 時 分・不在・不能

調査員の印象

長野大学産業社会学部社会福祉学科
社会福祉援助技術演習 I・II

F 1. あなたの年齢をお聞かせ下さい。

- | | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 60歳未満 | 2. 60～64歳 | 3. 65～69歳 | 4. 70～74歳 | 5. 75～79歳 |
| 6. 80歳以上 | | | | |

F 2. 現在の住居についてお尋ねします。

- | | | |
|------------|---------------------|----------|
| 1. 持ち家 | 2. 公営(公社・公団・自治体)の借家 | 3. 民間の借家 |
| 4. 民間のアパート | 5. その他() | |

F 3. 現在の住居に住んで何年になりますか。

- | | | | | |
|---------|---------|-----------|-----------|----------|
| 1. 5年未満 | 2. 5～9年 | 3. 10～14年 | 4. 15～19年 | 5. 20年以上 |
|---------|---------|-----------|-----------|----------|

F 4. あなたは、いつから「ふれあいランチ」を利用するようになりましたか。

- | | | | | |
|--------|--------|-------|-------|-------|
| 1. 5月 | 2. 6月 | 3. 7月 | 4. 8月 | 5. 9月 |
| 6. 10月 | 7. 11月 | | | |

F 5. あなたの生活費は、主に何から得ていますか。(1つだけ選んで下さい)

- | | | | |
|---------------|-----------------|-----------------------|-----------|
| (リスト1)
提 示 | 1. 仕事による収入 | 2. 仕送り・贈与 | 3. 国民年金 |
| | 4. 厚生年金 | 5. 共済年金 | 6. 老齢福祉年金 |
| | 7. 遺族年金 | 8. 障害年金 | 9. 恩給 |
| | 10. 生活保護 | 11. 家賃・地代・有価証券などの財産収入 | |
| | 12. 貯金・手持金の引き出し | 13. その他() | |

それでは、あなたの身体の状態についておろかがいします。

問1. あなたのここ3カ月間の日常生活について次の質問によくある、ときどきある、ほとんどないでお答え下さい。

- | | 1 | 2 | 3 |
|--|------|--------|--------|
| | よくある | ときどきある | ほとんどない |
| (1) 普段、人との会話で聞きとれないことがありますか？ | | | |
| (2) 電話の音が聞きとりにくいことがありますか？ | | | |
| (3) 新聞や雑誌の字が読みにくいことがありますか？(眼鏡をかけた状態でもよい) | | | |
| (4) 1m(3尺位)離れている人の顔がぼやけて見えにくいことがありますか？ | | | |
| (5) つまずいたり、転ぶことがありますか？ | | | |
| (6) 階段の昇り降りが困難なことがありますか？ | | | |
| (7) 畳に座っていて、一人で立ちあがりにくいことがありますか？ | | | |
| (8) おはしで豆などの細かいものがつまみにくいことがありますか？ | | | |

- | | | | |
|--|-----------|-------------|-------------|
| (9) 布団の上げおろしができにくいことがありますか？ | 1
よくある | 2
ときどきある | 3
ほとんどない |
| (10) ぞうきんやふきんが絞りにくいことがありますか？ | 1 | 2 | 3 |
| (11) 何かしようとして、立ち上がった瞬間に、何をしようとしたか忘れてしまうことがありますか？ | 1 | 2 | 3 |
| (12) おつりの計算ができにくいことがありますか？ | 1 | 2 | 3 |

問2. 現在高血圧や糖尿病等のように、食事を制限しなければいけないような病気はありますか？
(いくつでもお答え下さい)

- | | | | |
|------------------|--------|----------|-----------|
| 1. 食事を制限される病気はない | 2. 糖尿病 | 3. 高血圧 | 4. 肝臓病 |
| 5. 腎臓病 | 6. 心臓病 | 7. アレルギー | 8. その他() |
| () | () | () | () |

問3. (1) あなたの歯は現在いれ歯ですか？

1 はい	2 いいえ
---------	----------

(2) 歯が原因で食べられないものが次の中にありますか？ (いくつでもお答え下さい)

- | | | | |
|----------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 1. ない | 2. せんべいのようなかたいもの | 3. 肉のようなかみ切れないもの | (リスト)
提示
2 |
| 4. キャラメルのような歯にくっつくもの | 5. ゴマなどのかたくて細かいもの | 6. その他 | |
| 6. 野沢菜の様な歯にはさまるもの | 7. その他 | | |

問4. ここ一週間でみて、食料品の買い物をした日は何日ありましたか。

- | | | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1. 毎日 | 2. 六日 | 3. 五日 | 4. 四日 | 5. 三日 | 6. 二日 | 7. 一日 |
| 8. しなかった | | | | | | |

→SQ1) 8.と答えた方へ、それは何故ですか(具体的に)。

()

問5. あなたのお宅では、どなたが主に食料品の買い物に出かけられますか。

- | | | | |
|------------|--------|--------------|--------|
| 1. 自分 | 2. 配偶者 | 3. 近くに住む子供・孫 | 4. 親類 |
| 5. 近所の人に頼む | | 6. ヘルパー | 7. その他 |

→SQ1) 自分で食料品の買い物に出かける方にお伺いします。買い物は大変ですか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 大変である | 2. 大変ではない |
|----------|-----------|

→SQ1)と答えた方へ、それは何故ですか。(いくつでもお答え下さい)。

- | | | |
|---------------|------------------|-----------------|
| (リスト3)
を提示 | 1. 店が遠いから。 | 2. 交通量が多い道を通るから |
| | 3. 体が不自由であるから | 4. 体が疲れるから |
| | 5. 人ごみが煩わしいから | 6. 買い物がおっくうだから |
| | 7. その他(具体的に) [] | |

→S Q 2) ① 自分では食料品の買い物に出かけない方にお伺いします。自分で買い物に出かけないのは何故ですか。(いくつでもお答え下さい)。

(リスト4)
を提示

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 買い物の役割を受け持っていないから | 2. 店が遠いから |
| 3. 交通量の多い道を通るから | 4. 体が不自由であるから |
| 5. 体が疲れるから | 6. 人ごみが煩わしいから |
| 7. 買い物がおっくうだから | 8. その他(具体的に) |

[]

→S Q 2) ② 他の人に食料品の買い物を頼む事はうまくいっていますか。

(はい) (どちらともいえない) (いいえ)

1 2 3

→S S Q 1) 2,3と答えた方へ、それは何故ですか(具体的に)。

[]

問6. あなたのお宅では、どなたが主にお料理をなさいますか。

- | | | | |
|------------|---------|--------------|-------|
| 1. 自分 | 2. 配偶者 | 3. 近くに住む子供・孫 | 4. 親類 |
| 3. 近所の人に頼む | 6. ヘルパー | 7. その他 | |

→S Q 1) 自分で料理をする方にお伺いします。料理は大変ですか。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 大変である。 | 2. 大変ではない |
|-----------|-----------|

→S S Q(1) 1と答えた方へ、それは何故ですか。(いくつでもお答え下さい)。

(リスト5)
を提示

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 料理をする事が得意でないから | 3. 体が不自由であるから |
| 2. 自分で料理をする事が、おっくうであるから | 5. 食事を作る張り合いがないから |
| 4. 体が疲れるから | |
| 6. その他(具体的に) | |

[]

→S Q 2) ① 自分では料理をしない方にお伺いします。自分でお料理をしないのはなぜですか。(いくつでもお答え下さい)。

(リスト6)
を提示

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 料理をする役割を受け持っていないから | |
| 2. 料理をする事が得意でないから | |
| 3. 自分で料理をする事が、おっくうであるから | |
| 4. 体が不自由であるよ | 5. 体が疲れるから |
| 6. 食事を作る張り合いがないから | 7. その他(具体的に) |

[]

→S Q 2) ② 他の人に料理を作ってもらうのを頼む事はうまくいっていますか。

(はい) (どちらともいえない) (いいえ)

1 2 3

問7. 調理について、お伺いします。

ここ一週間でみて、どれくらいお宅で調理して、食事をしましたか。

- | | | |
|-----------|-----------------|------------------|
| 1. 毎回作る。 | 2. 一週間のうち半分以上作る | 3. 一週間のうち半分以下は作る |
| 4. 全く作らない | | |

問8. あなたの食事の回数についてお伺いします。

ここ一週間でみて、だいたいあなたは一日に何回食事をとりましたか。

- | |
|---|
| 1. 一回食事をとる (1. 朝食 2. 昼食 3. 夕食) |
| 2. 二回食事をとる (1. 朝食と昼食 2. 朝食と夕食 3. 昼食と夕食) |
| 3. 三回食事をとる 4. その他 () |

→SQ1) 「1・2」と答えられた方にお伺いします。

それは何故ですか。

(リスト
提示7)

- | | | |
|----------------------------------|--------------------|----------|
| 1. 習慣だから | 2. お金がないから | 3. 忙しいから |
| 4. 身体の具合が悪く、調理出来ないから | 5. 調理する気分になれないから | |
| 6. 水道栓がひねれないなど、設備面に不備なところがあるから | | |
| 7. 身体の調子が悪く面倒だから | 8. 体の調子は悪くないが面倒だから | |
| 9. 以前失敗した経験があり、調理することに恐怖感があるから | | |
| 10. その他 () | | |

それでは、あなたの健康管理についてお伺いします。

問9. あなたは、健康のために日頃、以下のようなことに気を使っておられますか？

そう思う、どちらとも言えない、そう思わない、でお答え下さい。

- | | 1 | 2 | 3 |
|----------------------------------|------|-----------|--------|
| | そう思う | どちらとも言えない | そう思わない |
| (1) 毎日、規則正しく食事をとっている | 1 | 2 | 3 |
| (2) 毎食野菜を多く取るようにしている | 1 | 2 | 3 |
| (3) 甘味の飲食物はできるだけひかえている | 1 | 2 | 3 |
| (4) 塩からいものはできるだけひかえている | 1 | 2 | 3 |
| (5) とうふ等大豆製品をなるべくとるようにしている | 1 | 2 | 3 |
| (6) タバコは吸わないようにしている | 1 | 2 | 3 |
| (7) 酒はなるべく飲まないようにしている | 1 | 2 | 3 |
| (8) 間食や夜食をひかえている | 1 | 2 | 3 |
| (9) 油っこい食品はひかえている | 1 | 2 | 3 |
| (10) 添加物や着色料などが少ないものを食べるようにしている。 | 1 | 2 | 3 |

6. 周囲から勧められたので、やむをえず利用した。
 7. 周囲から勧められたので、ためしに利用した。
 8. 楽しみを増やしたかったから。
 9. 配食員とのふれあいを期待したから。
 10. 台所などの料理をする設備がととのっていないから。
 11. 近くに買い物をするような売店がないから。
 12. その他()

問16. 給食サービスを利用して、次の点について変化がありましたか。

はい、どちらとも言えない、いいえでお答え下さい。

- | | | | |
|------------------------------|---------|----------------|----------|
| (1) 料理の手間が、はぶけた。 | 1
はい | 2
どちらとも言えない | 3
いいえ |
| (2) 買い物の手間が、はぶけた。 | 1 | 2 | 3 |
| (3) 食事が楽しくなった。 | 1 | 2 | 3 |
| (4) 食費が安くすんだ。 | 1 | 2 | 3 |
| (5) 給食サービスの食事により、栄養のバランスがとれた | 1 | 2 | 3 |
| (6) 人と話す、機会が増えた。 | 1 | 2 | 3 |
| (7) 生活していく上で、楽しみが増えた。 | 1 | 2 | 3 |
| (8) 他の福祉サービスにも、関心を持つ様になった。 | 1 | 2 | 3 |

→(SQ)

- (8-1) “はい” と答えた方に、お尋ねします。
 具体的には、どの様なサービスですか。

()

問17. それでは、給食サービスの内容についてお尋ねします。

次の事についてお答え下さい。

- | | | | |
|--------------------------------|-----------|------------------|------------|
| (1) ごはんの量については、多いですか、少ないですか。 | 1
多い | 2
ちょうどよい | 3
少ない |
| (2) ごはんのかたさについては、どうでしょうか。 | 1
かたい | 2
普通 | 3
やわらかい |
| (3) ごはんの味については、おいしいですか、まずいですか。 | 1
おいしい | 2
普通 | 3
まずい |
| (4) おかずの品数については、多いですか、不足ですか。 | 1
多い | 2
充分 | 3
不足 |
| (5) おかずの味つけについては、塩からいと思いませんか。 | 1
はい | 2
どちらとも
いえ | 3
いいえ |

(6) お弁当の容器については、どう思われますか。

1 2 3
よい 普通 悪い

(7) お弁当は、栄養のバランスがとれていると思
いますか。

1 2 3
はい どちらとも いえ ない

(8) お弁当の内容については、満足ですか。

1 2 3
満足 普通 不満

(9) 現在、給食は月曜日から、金曜日に配達され
ていますが、配達される曜日については、今の
ままでいいですか。

- 1. 今のままでよい。
- 2. 土・日も配達してほしい。
- 3. その他 ()

(10) 現在、給食はお昼頃配達されていますが、配
食される時間については、どう思われますか。

- 1. 今のままでよい。
- 2. 朝に配達してほしい。
- 3. 夕に配達してほしい。
- 4. その他 ()

(11) 値段については、高いですか、どうですか。

1 2 3
高い 普通 安い

問18. 現在の給食サービスは、自宅に食事を配達する形をとっていますが、皆さんで集まって、お食事
をする、「会食サービス」というものについては、どう思われますか。

1つだけ、お選び下さい。

- 1. 一週間に一度くらい、利用したい。
- 2. 一ヶ月に一度くらい、利用したい。
- 3. よくわからないので、「会食サービス」についてもっと知りたい。
- 4. 「会食サービス」は、必要はない。
- 5. 特に関心はない。

(リスト提示9)

問19. 率直にお伺いしますが、今後も、この「ふれ
あいランチ」を続け様と、思われますか。

1 2 3
思う わからない 思わない

問20. 「ふれあいランチ」について、要望がございましたら、お聞かせ下さい。

[Empty box for question 20]

問21. 日常生活における人間関係について、お伺い
します。

(1) あなたには、会うと心が落ちつき安心できる
人がいますか。

1 2
いる いない

—SQ 1) 「いる」とお答えになった方にお伺いします。それはどなたですか。

- 1. 配偶者 2. 子供 3. 孫 4. 親 5. 親類 6. 友人 7. 近所
- 8. ヘルパー 9. 民生委員 10. 配食員 11. その他 ()

- (2) あなたには、気持ちの通じ合う人がいますか。 1 2
 (3) あなたには、常日頃あなたの気持ちを敏感に察してくれる人がいますか。 1 2
 (4) あなたには、あなたを日頃認め、評価してくれる人がいますか。 1 2
 (5) あなたには、あなたを信じてあなたの思うようにさせてくれる人がいますか。 1 2
 (6) あなたには、あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる人がいますか。 1 2
 (7) あなたには、経済的に困っている時に、頼りになる人がいますか。 1 2

↳SQ1) 「いる」とお答えになった方にお伺いします。それはどなたですか。 (リスト提示10)

- | | | | | | | |
|---------|---------|---------|------------|-------|-------|-------|
| 1. 配偶者 | 2. 子供 | 3. 孫 | 4. 親 | 5. 親類 | 6. 友人 | 7. 近所 |
| 8. ヘルパー | 9. 民生委員 | 10. 配食員 | 11. その他() | | | |

- (8) あなたには、あなたが病気で寝込んだ時に、身のまわりの世話をしてくれる人がいますか。 1 2

↳SQ1) 「いる」とお答えになった方にお伺いします。それはどなたですか。 (リスト提示10)

- | | | | | | | |
|---------|---------|---------|------------|-------|-------|-------|
| 1. 配偶者 | 2. 子供 | 3. 孫 | 4. 親 | 5. 親類 | 6. 友人 | 7. 近所 |
| 8. ヘルパー | 9. 民生委員 | 10. 配食員 | 11. その他() | | | |

- (9) あなたには、食事の準備を手伝ってくれる人がいますか。 1 2
 (10) 同居している人以外で、余暇や買物などに一緒に出掛ける人がいますか。 1 2
 (11) あなたには、個人的な気持ちや秘密を打ち明けることのできる人がいますか。 1 2
 (12) あなたには、お互いの考えや将来のことなどを話し合うことのできる人がいますか。 1 2
 (13) あなたには、甘えられる人がいますか。 1 2

問22. その他、社協、行政について要望があればお聞かせ下さい。

(1) 社協(社会福祉協議会)について

(F・A)

(2) 行政(国、県、市)について

(F・A)

(国)

(F ・ A)

(県)

(市)

これで、質問は全て終わりました。長い時間、ご協力ありがとうございました。

(1988 年度
社会福祉援助技術演習Ⅰ演習生)

朝日奈 克己 ・ 飯島 明美
井上 美香 ・ 金城 あゆみ
鈴木 政宏 ・ 高橋 幸雄
中山 和恵 ・ 本島 政宏
柳沢 知美 ・

(1988 年度
社会福祉援助技術演習Ⅱ演習生)

秋山 孝子 ・ 安部 成美
石田 幸子 ・ 磯部 愛子
今成 純子 ・ 小穴 貴弘
岡村 裕 ・ 我山 公広
笹川 直樹 ・ 谷 伊津美
七澤 馨 ・ 半坂 紀子
平賀 紀章 ・ 六浦 佳子
小島 裕子

〔末筆ではありますが、貴重な機会を提供して下さった上田市社会福祉協議会と調査に協力いただいた、「ふれあいランチ」の利用者の皆様に感謝致します。〕

(1989. 4. 13 受理)